News Release

ウッドデザイン賞運営事務局

(特)活木活木森ネットワーク、(公社)国土緑化推進機構、 (株)ユニバーサルデザイン総合研究所

http://www.wooddesign.jp/

本年度新たに創設された『ウッドデザイン賞 2015(新・木づかい顕彰)』の 農林水産大臣賞・林野庁長官賞・審査委員長賞 40 作品が決定!



~地方創生に貢献する六次産業化、都市の木質化、森林と都市を繋ぐ仕組み等が上位賞を受賞~

本年度新たに創設した「ウッドデザイン賞 2015(新・木づかい顕彰)」の農林水産大臣賞(最優秀賞)1点、林野庁長官賞(優秀賞)9点、審査委員長賞(奨励賞)30点が決定しました。

記念すべき第1回の農林水産大臣賞(最優秀賞)は、地方創生に貢献する林業・木材産業の六次産業化モデルを実践している株式会社 西粟倉・森の学校(岡山県西粟倉村)の『「みんなの材木屋」発 森と暮らしを創る六次産業化モデル』が受賞しました。

この最優秀賞をはじめ、木づかいの新たな領域を拓く施設、技術、ユニークな木製品から取組まで多彩で特色ある作品が上位賞に入選しています。

上位賞受賞表彰式を、本日 12 時 30 分から東京ビッグサイト東 3 ホールエコプロダクツ 2015 イベントステージで行います。また 15 時からは「東京ビッグサイト」レセプションホール A(会議棟1階)で、<u>赤池 学・審査委員長</u>をはじめとした審査委員が登壇する「シンポジウム」を開催、その後上位賞受賞作品の展示や受賞者との交流会も行います。

さらに、同日から 12 日にかけて「東京ビックサイト」東展示場で開催される、エコプロダクツ 2015「森林(もり)からはじまるエコライフ展」内に設置された「『ウッドデザイン賞』特設ブース」(東4ホール、小間番号 F-01)においては、上位賞受賞作品とともに、二次審査を通過した「ウッドデザイン賞」受賞作品(397点)全点をパネル等の展示、各審査委員からの動画メッセージの上映を行います。

なお、受賞作品(397 点)については、年明けに発行予定の「コンセプトブック」に掲載されるほか、ウェブサイトでもご覧いただけるようになります(平成 28 年 1 月公開予定)。その他、全国巡回展での展示も予定しております。実施スケジュール等詳細はウッドデザイン賞公式ウェブサイト(http://www.wooddesign.jp)で順次ご案内いたします。

- ※ 農林水産大臣賞(最優秀賞)、林野庁長官賞(優秀賞)、審査委員長賞(奨励賞)作品は次ページからのとおりです。
- ※「ウッドデザイン賞」の概要については、別添の通りです。

本件に関するお問い合わせ先

ウッドデザイン賞応募受付担当(担当:永山・小澤)

〒105-0003 東京都港区西新橋 3-3-1 西新橋 TS ビル 7F

電話: 03-5777-3128 FAX: 03-3670-8333 E-mail: info2015@wooddesign.jp

エコプロダクツ 2015 開催期間中(12/10(木)~12/12(土))の連絡先: 090-5549-4331

■ウッドデザイン賞 2015 農林水産大臣賞(最優秀賞)はじめ上位賞 40 作品一覧

農林水産大臣賞(最 優秀 賞)		ペー ジ
「みんなの材木屋」発	株式会社 西粟倉・森の学校	p.4
森と暮らしを創る六次産業化モデル		p.²

林野庁長官賞(優秀賞)			ページ
	ららぽーと海老名	大建工業株式会社	_
= /= 7 5 7 11	キッズプレイエリア「ウッドキューブ」	パワープレイス株式会社、三井不動産株式会社	p.5
ライフスタイル デザイン部門	住まいの耐震博覧会	ナイス株式会社	p.5
	連続開口設計サポート	株式会社 LIXIL	p.6
JRKYUSHU SWEET TRAIN		九州旅客鉄道株式会社	6. q
ハートフル デザイン部門	「或る列車」		
		岐阜県立森林文化アカデミー	
	アベマキ学校机プロジェクト	美濃加茂市、可茂森林組合、美濃加茂市立山之上小学校	p.7
		株式会社丸七ヒダ川ウッド、岐阜県森林研究所	
	東京おもちゃ美術館	性中小学和江野・「ロナゲ・・」、「オ号へ	
	「ウッドスタート」	特定非営利活動法人日本グッド・トイ委員会 	p.7
	積水ハウス シャーウッド	#	
	~純国産材プレミアムモデル~	積水ハウス株式会社	p.8
ソーシャル	キシル	##* <u>*</u> ヘルナン.!!	. 0
デザイン部門	六次産業化プロジェクト	株式会社キシル 	p.8
	RC/S 造建築物における	八光叶田:1 十十 - 人上排佈空	- 0
	内装木質化設計マニュアルの作成	公益財団法人 木材・合板博物館 	p.9

審查委員長賞(奨励賞)			%− ÿ
	「あたらしい家 校倉」	伊佐ホームズ株式会社	p.10
	やまなみ保育園	m-di 空間デザイン、社会福祉法人清菱会、株式会社設計工房α 株式会社スタジオゲンクマガイ、株式会社和晃建装	p.10
	ケロリン木桶	内外薬品株式会社、志水木材産業株式会社、長野県	p.10
	めぐる	株式会社明天、ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン 石原木工所、丸祐製作所、吉田漆工房、塗師一富	p.10
	間伐材もく糸クロス	株式会社和紙の布	p.11
ライフスタイル デザイン部門	敷くだけフローリング	SMALL WOOD TOKYO	p.11
	WooD INFILL	株式会社内田洋行、鹿沼WOOD INFILL 有限責任事業組合 パワープレイス株式会社、日本全国スギダラケ倶楽部 テラダデザインー級建築士事務所	p.11
	POLUS -ポラス- 学生・建築デザインコンペティション	ポラス株式会社	p.11
	全国一斉100のありがとう風呂	株式会社熊野古道おわせ	p.12
	木の内装と間接照明を組み合わせた寝室環 境による睡眠の質改善効果と疲労軽減効果	住友林業株式会社	p.12

		株式会社日建設計、熊本空港ビルディング株式会社	
	阿蘇くまもと空港 国内線ターミナル	大成建設株式会社、一般社団法人熊本県木材協会連合会	p.12
		株式会社ウッディーファーム	
	ヘンロ小屋	歌一洋	p.12
		「四国八十八ヶ所ヘンロ小屋プロジェクト」を支援する会	
	樹の壁紙 恋樹百景	株式会社ビッグウィル	p.13
	Pendant Lamp BL-P425	ブナコ株式会社	p.13
ハートフル	KURIKOMA	株式会社 ワイス・ワイス	p.13
デザイン部門	100 年杉の sim chair	株式会社コマ	p.13
	誕生木(たんじょうもく)	株式会社Labo	p.14
	12 の樹の物語	体式 云 红Labo	p.14
	木レール (君のミニ列車を幻の	NPO 法人 五新線再生推進会議	p.14
	五新鉄道で走らせよう)		P
	人間の快適性に及ぼす木材の	国立研究開発法人森林総合研究所	
	触覚、視覚及び嗅覚刺激の 効果の解明	京都大学生物材料設計分野	p.14
		一般社団法人創造再生研究所、株式会社MATSUIギター工房	
	国産木材エレキギターの木質形成と音響特性の分析研究	天竜 T.S. ドライシステム共同組合	p.14
	の方利研究	京都大学農学部森林科学学科	
			1
	Zero Energy Timber House (ZETH)	金子建築工業株式会社、協同組合 東濃地域木材流通センター	p.15
		(通称 木 Keypoint(キーポイント)) Atelier KISHISHITA+Man*go design、日本圧着端子製造株式会社	
	日本圧着端子製造株式会社	鹿島建設株式会社 関西支店、越井木材工業株式会社	p.15
		株式会社竹中工務店、株式会社乃村工藝社	
	竹中大工道具館新館	公益財団法人竹中大工道具館	p.15
	カーボンオフセットサイディング	ニチハ株式会社	p.15
	「京銀ふれあいの森」等の地域産材を使用し		
	た、銀行店舗内装木質化工事	株式会社京都銀行	p.16
		株式会社北海道ポットラック、株式会社パワープレイス	
ソーシャル	旭川トドマツ屋台プロジェクト	北海道上川総合振興局、旭川市、旭川信用金庫	p.16
デザイン部門		CONITURE プロジェクトメンバー	
, , 1 = HM 1		やまなし水源地ブランド推進協議会、早川町、丹波山村、道志村	
		公益財団法人オイスカ、特定非営利活動法人木 net やまなし	
	やまなし水源地ブランド推進協議会	特定非営利活動法人道志・森づくりネットワーク	p.16
		山梨県工業技術センター	
		株式会社イトーキ、シナプテック株式会社	
	大工の手	一般社団法人わざわ座	p.17
	「セブンの森」プロジェクト	株式会社 セブン&アイ ホールディングス	p.17
	1 1 2 3 3 4 1 5 11 1 1 4 4 5		
	丸太打設液状化対策&	飛島建設株式会社、兼松日産農林株式会社	p.17
	カーボンストック(LP-LiC)工法	昭和マテリアル株式会社	

【農林水産大臣賞(最優秀賞)】

■作品名

「みんなの材木屋」発 森と暮らしを創る六次産業化モデル

■受賞者名

株式会社西粟倉・森の学校













【作品の概要】

木材を使って、つくる人を増やし暮らしをつくる文化にしてくことで、新しい木材流通を構築していけると考えています。単なる流通の簡略化ではなく、木材を求めている人に林業や木材のモノやコトを個人に直接届けることのできる仕組みを提供しています。

「みんなの材木屋」は「暮らし・森・つくる人をつなげる」をミッションに、たくさんの人に暮らしをつくる「ワクワク」を提案するオンラインショップです。ほとんどが業者向けだった木材流通を、欲しい暮らしを自分でつくる人のためにWEBサービスにより材木を購入できる仕組みを構築し、ダイレクトマーケティングにより新たな市場開拓をする試みです。木材の知識のない人でも購入でき、自ら暮らしをつくれる社会にしていくために、メートル法へ変更した材木規格の再定義、購入者自身が最後に手を加えて完成させる半完成品の材木プロダクトを開発、内装やインテリアをつくるノウハウのオープンソース化等に取組んでいます。プロダクツとしては、間伐材からユカハリ・タイルをつくり、その端材からヒトテマキットをつくり、それでも残った端材は、燃料として有効活用しています。

利用者はイベントやワークショップを自ら開催し、つくる時間を共有することで林業や国産材について自らの言葉で語ってくれています。

西粟倉村は、面積の 84%が人工林で、先人たちの手で一本一本、広大な範囲の山々を苗を背負ってその足で歩いて植えられ、世代を超えて守り、育て、受け継がれてきました。このかけがえのない財産のために森林を適切に管理・有効利用しながら持続可能な経営を行うとともに、村内外に向けて情報を発信しこの取組に関わる人たちの輪を広げたい、小さな村の大きな挑戦は村に関わる全ての人の想いで結ばれます。

【審査委員会コメント】

木材流通を消費者目線によって再構成し、暮らしの中の木づかいを身近にした先進性ある取組である。供給側と消費者とのダイレクトコミュニケーションによって、自分でつくる喜びを提案し、新たな市場を拓く試みにつながっている。半完成品型のプロダクツもわかりやすく、ウッドデザイン賞の趣旨を満たす最も優れた活動として評価した。

【林野庁長官賞(優秀賞)】 ライフスタイルデザイン部門

- ■作品名 ららぽーと海老名キッズプレイエリア「ウッドキューブ」
- ■受賞者名 大建工業株式会社、パワープレイス株式会社、三井不動産株式会社



【作品の概要】

三井不動産株式会社が新しく手掛けた大型商業施設「ららぽーと海老名」にある、親子が一緒に遊び、国産材の良さを実感できるキッズプレイエリア。ユニット化された家具型木質空間は、同社の保有林である北海道のカラマツ、トドマツ間伐材を使用。施設の通路を木質化し、創造を育む木のおもちゃや造形パネルも設置。木の良さを身近に感じ、心地よく過ごせる環境を提供しています。

幅広い世代が多数利用する大型商業施設に、木育ひろばとした空間には、色や見た目で強く主張するものを控え目に押さえているので、子供や大人がいつまでも心地よく居られることを狙いとしました。壁面には、木製おもちゃを5つの構成(デザイン・動き・物語・感触・音)に配置し、子供たちの創造力を養い、感性に働きかける要素も取り入れました。若い世代にも、もっと木の良さを知ってもらえる、今までにない商業施設として利用を期待しています。

【審査委員会コメント】

子ども・子育て層に対する、「木が身近にある暮らし」を、ユニット型木質空間という形で商業施設やイベント等でフレキシブルに活用する社会性ある提案である。造作のデザインも秀逸で、木の良さ、楽しさを実感させ、家庭での木づかいにもつながっていく可能性があり、優秀賞とした。

【林野庁長官賞(優秀賞)】 ライフスタイルデザイン部門

■作品名 住まいの耐震博覧会■受賞者名 ナイス株式会社



【作品の概要】

「住まいの耐震博覧会」はナイス株式会社が開催している展示会で、林野庁や地方公共団体をはじめ、木材・建材メーカー、木材・建材流通事業者、住宅施工事業者、住宅関連事業者・団体などが参画し、木を活用した住まいづくりや暮らしの提案をはじめ、耐震性や省エネ性、健康性に優れた最新の家づくりなどを一般ユーザーやプロユーザーに幅広く情報発信しています。2015年は東京、名古屋、仙台、大阪、福岡の5カ所で約14万5千名が来場し、スタートした2002年からの累計来場者は162万人となっています。東京会場の木材展示スペースは木材関連展示会として日本最大級の面積に及びます。

【審査委員会コメント】

「木を使う住まいづくり」のあらゆる情報を、一般ユーザーだけではなくプロユーザーにも提供している点が素晴らしい。耐震やエネルギー、健康配慮など暮らしに欠かせない要素の最新情報に一同に触れることができる機会を提供しており、消費者からプロまで木づかいの選択肢を広げる契機となっている。

【林野庁長官賞(優秀賞)】 ライフスタイルデザイン部門

■作品名 連続開口設計サポート

■受賞者名 株式会社 LIXIL



【作品の概要】

標準的な流通木材で構成した開口ユニットを用い、ユニットごとに構造解析し、予め壁倍率を算出。それを反映し、邸ごとに家一棟全体の構造計算を実施することで、一般的な木造住宅を供給しているプレカット会社/一般ビルダーで開口部を耐力壁とする在来木造住宅を提供可能とするシステムです。元々、日本人が慣れ親しんだ木造住宅は現在の木造に比べ、とても開放的なものでした。しかし、断熱気密耐震の確保等の制約で本来、個々デザイナーの意図を実現しづらい面が現在の在来木造住宅にあり、設計的な意図ではなく開口部が小さくなる傾向にあります。これに対し、一般ビルダー・PCによって今まで以上の開口自由度を持った在来木造住宅をこのシステムを使って実現することで、住まい手にとっても今まで以上に室内が明るく、風通しのよい快適な我々日本人にとってなじみ易い、開放的な木造住宅で暮らすことができ、こうした在来木造が普及することで現在の木造住宅の主な担い手による供給システムもブラッシュアップしながら継続していきます。

【審査委員会コメント】

木材でつくられた開口ユニットを構造解析し、開口部を耐力壁とする在来木造住宅を可能にする新規性ある構法で、開放的で利便性の高い空間づくりを 消費者へもたらすことに成功している。システム化によって一般ビルダーへの普及を目指し、暮らしの豊かさをもたらす木造住宅を広げていくというビジネスモデルとして効果がある。

【林野庁長官賞(優秀賞)】 ハートフルデザイン部門

■作品名 JRKYUSHU SWEET TRAIN「或る列車」

■受賞者名 九州旅客鉄道株式会社



【作品の概要】

明治 39 年(1906 年)、当時の「九州鉄道」がアメリカのブリル社に豪華客車を発注したものの、活躍する機会のなかった「九州鉄道ブリル客車」、通称「或る列車」。 世界的な鉄道模型の神様といわれた故・原信太郎氏が作成した模型を元に、水戸岡鋭治氏がデザイン・設計。 「原鉄道模型博物館」副館長を務める原健人氏が監修。 1号車車内は格子天井等によりクラシカルな雰囲気を感じられる空間に、2号車車内は組子の雪見障子等を使用した個性的なコンパートメント(個室) 空間としています。 ふんだんに木材を使用した豪華な車内とともに旅を演出するのが、世界的にも評価の高い成澤由浩シェフのスイーツコースです。

【審査委員会コメント】

木質の美しく快適な内装空間のデザインは、そこが列車内であることを忘れさせるほど印象的で充実感をもたらす。九州の地域の魅力を発信する車両 床、家具、窓の板戸・障子、窓飾り組子、雪見障子などに地域の杉材が使われ、まさにハートフルな空間づくりにつながっている点を高く評価した。

【林野庁長官賞(優秀賞)】 ハートフルデザイン部門

■作品名 アベマキ学校机プロジェクト

■受賞者名
・・・
・
・
・
は阜県立森林文化アカデミー、美濃加茂市、可茂森林組合、美濃加茂市立山之上小学校、株式会社丸七七ダ川ウッド、岐阜県森林研究所



【作品の概要】

アベマキ学校机プロジェクトでは、岐阜県美濃加茂市北部に群生しているアベマキを使い、地元の小学校で生徒たちが毎日触れる学校机の天板を制作します。アベマキはかつての薪炭利用がなくなり放置され、かつ材の性質も反りや割れなどが激しいため木工用途としても活用されてきませんでした。しかし非常に硬い材であり机の天板としては最適です。乾燥試験を繰り返し、反り、割れなどの欠点を克服することで有効利用が進みます。

このプロジェクトでは、生徒らは、5 年生の冬にアベマキの伐倒現場を見学します。伐倒されたアベマキは製材、乾燥され、そして天板に加工していきますが、6 年生になったらその一部を体験します。こうして出来上がった天板は翌年入学してくる新一年生に贈られます。この流れを毎年実施しながら、里山の整備と地域材の循環、そして子どもたち への地域の自然に対する心を育んでいくことを目的として、岐阜県美濃加茂市、可茂森林組合、岐阜県立森林文化アカデミーが中心となり、地元の小学校や製材所などと進めています。この地域内で完結する身の文にあったプロジェクトということも特徴です。

【審査委員会コメント】

上級生が机を作り1年生に贈るという、木づかいの思いが引き継がれていく点、学校という継続性のある仕組みの中で取組まれている点は意義深い。木の天板作りも6年生の木工であれば無理なく作りやすく学校教育、木育の面からも評価できる。取組全体にまとまり感があり、ステークホルダーすべてが関与していることは重要である。

【林野庁長官賞(優秀賞)】 ハートフルデザイン部門

■作品名 東京おもちゃ美術館「ウッドスタート」

■受賞者名 特定非営利活動法人日本グッド・トイ委員会



【作品の概要】

ウッドスタートは、東京おもちゃ美術館が取り組んでいる木育推進事業のこと。「ファーストトイは地産地消の木のおもちゃから」を合い言葉に、全国各地の自治体が、地域材を活用した東京おもちゃ美術館監修のオリジナル木製玩具をプレゼントする事業を展開しています。2011年4月に東京都新宿区が開始したのを皮切りに、北海道雨竜町、群馬県上野村、東京都檜原村、岐阜県美濃市、宮崎県日南市、沖縄県国頭村など、13の自治体がすでにウッドスタート宣言をしています。さらに今年度末までに、10近くの自治体が宣言を予定。全国各地にウッドスタートの風が吹き荒れています。このウッドスタートは、当該自治体の誕生祝い品事業にとどまりません。同じくウッドスタート宣言をした企業(良品計画、内田洋行など9社)が、社員やお客さんにプレゼントする誕生祝い品としても採用されます。東京おもちゃ美術館のイベントや全国ネットワークを活用しての販売も行われています。「地産地消」から「地産外消」へ。そしてもちろん赤ちゃん時代にとどまらず、食器や勉強机、ベッド、マイホーム、最後は棺桶まで、くらしの中に木を取り戻す運動でもあります。

【審査委員会コメント】

生まれた土地の木で赤ちゃんのおもちゃを作り、贈る。川の流域、地域、木材産地など汎用性がある取組であり、木のおもちゃと子どもの育ちという点に温かく、卓越したメッセージが込められている。同様の仕組みで他分野への展開の可能性も感じられる。

【林野庁長官賞(優秀賞)】 ソーシャルデザイン部門

- ■作品名 積水ハウス シャーウッド~純国産材プレミアムモデル~
- ■受賞者名 積水ハウス株式会社



【作品の概要】

積水ハウスの木造住宅『シャーウッド』において、柱と梁をまるごと国産材化した商品。柱については単に国産材ということではなく本物志向の地域ブランド材(杉:秋田杉・吉野杉、檜:木曽檜・吉野檜・美作檜など)を準備。お客様のお住まいの地域に近い産地で育った地域(国産)ブランド材を使用していただくことが可能で、お客様の住まいへの愛着や地域材(国産材)への関心を増すことを狙いとしています。また住宅の中で最も使用量が大きいにも関わらず、強度面から一般的に国産材の活用のハードルが高いとされてきた「梁」についても、国産材を贅沢に使用しています。住宅の構造性能についても、北欧産材を使用する場合と変わらない高いレベルを実現するために、国産材の柱・梁の品質を確保。また、出荷量の増加に対応するために、新たなメーカー様や生産者様とのネットワークを構築し、樹種を追加しました。地域ブランド材の構造柱には樹種と産地を印字して表現し、建築中の現場においても国産材を使用していることを、見学にいらしたお客様はもちろん、建築地の近隣の方、工事関係者が意識して身近に感じ、国産材の魅力が伝わるようにしています。

【審査委員会コメント】

ハウスメーカーの取り組みとして国産材の使用が本格化しているが、これは柱と梁を 100%国産材化した商品であり、消費者に対して、地域ブランド材の価値を可視化するコミュニケーションプログラムも併せ持っている点が秀逸である。地域材のブランド価値向上とユーザーの地域への思いの醸成の両立を満たしている。

【林野庁長官賞(優秀賞)】 ソーシャルデザイン部門

■作品名 キシル 六次産業化プロジェクト

■受賞者名 株式会社キシル



【作品の概要】

キシルでは林業での六次産業化を目指し、製材工場「キシル東工場」と加工工場「キシル南工場」を稼動、将来的には山林の購入も視野に入れた「キシル 六次産業化プロジェクト」を進めています。家具販売業から始まったキシルが考える解決法は、「たくさんの人に支持される洗練された商品を生み出す」ことです。

本プロジェクトでは、ユーザーから届く要望や情報をもとに、地元の林業家や製材・加工業者と積極的に連携、現在年間約10社のペースで林業家や製材 所・木工所との連携を広げ、協働で新技術を開発レノウハウの再分配をおこなっています。

また、キシルではこのプロジェクトについて、自治体と連携した広報活動や全国からの研修受け入れなども行っています。

このような、川上、川下がつながった仕組みで得られるトレーサビリティは、消費者の安心感につながっており、ブランドは毎年約 5000 人のユーザーによって育てられ、フェイスブックでは約 13000 人のファンを持っています。更に、消費者のニーズを各プロセスにタイムリーに反映することもできるので、木材生産の時点でコスト管理ができ、販売計画をもとに伐採や製材、製造をスムーズに進めています。

【審査委員会コメント】

六次産業を川上からでなく、ユーザー目線から辿るという逆転の発想に新たな展開の可能性が見えてくる、ウッドデザイン賞に相応しい優れた取組である。 消費者ニーズを正面からとらえ、自社の開発プロセスに活かし、地域での協業につなげていく本来あるべきバリューチェーンを目指している点を評価した。

【林野庁長官賞(優秀賞)】 ソーシャルデザイン部門

- ■作品名 RC/S 造建築物における内装木質化設計マニュアルの作成
- ■受賞者名 公益財団法人木材·合板博物館



【作品の概要】

建築士が設計上 RC/S 造建築物内装を木質化する上で「防耐火規制」の諸規程をいちいちチェックするのは面倒です。「内装木質化ハンドブック」は、木質化が推進されていない現状を打破するものであり、国土交通省の営繕部等第三者からも高い評価を得ています。また施主が消防の検査を受ける場合でもこのマニュアルが役立つように、素人でも判り易いマニュアルである点が特徴です。

建築基準法等の防耐火規制は人命を守る為の規制として厳守すべきだが、「木」は今後インテリアデザイナーや建築士による、センスあるデザインの中で主張されるべき素材です。木造化、木質化による「木」の活用は、とかく構造材ばかりに目が向けられるが、首都圏で高層ビルが立ち並ぶ中で、構造部分の木質化が不可能だとしても、内装の木質化は可能であり、「木」の需要増加に繋がります。

【審査委員会コメント】

内装の木造化、木質化のための実践的なマニュアルであり、木を使った設計、デザインの質向上につながる社会性の高いものである。煩雑な情報を丁寧に積み上げており、設計の際の使い勝手の良さとともに、新たなデザインアイデアにつながるようなクリエイティブ・ツールとしても役立ちそうである。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ライフスタイルデザイン部門

■作品名 「あたらしい家 校倉」■受賞者名 伊佐ホームズ株式会社

【作品の概要】

木の文化や伝統を大切にし、4間角の平面と4隅の自由性・可変性あるユニット構成で、多様なライフスタイルに応えるプラン提案。

【審査委員会コメント】

4間角の平面と自由で可変性あるユニットのシンプルな構成で空間を自由にデザインできるフレキシビリティが良い。時間とともに変化する家族構成、ライフスタイルの変化に応える現代的な発想がある。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ライフスタイルデザイン部門

■作品名 やまなみ保育園

■受賞者名 m-di 空間デザイン、社会福祉法人清菱会、株式会社設計工房α、株式会社スタジオゲンクマガイ、株式会社和晃建装

【作品の概要】

床や壁・家具に多種・地域の材を使用することで、「かぞくのような材を使う」「木にも個性がある」ことを伝える保育園のデザイン。

【審査委員会コメント】

県産材の杉を用いて、園児の感性を伸ばす生活空間としての工夫が凝らされた園舎・園庭のデザインである。幼児期の多くの時間を過ごす保育園において、地域のこと、木材のことを空間を通じて伝えることで生活の一部に木があることを教えている。

【審査委員長當(奨励當)】 ライフスタイルデザイン部門

■作品名 ケロリン木桶

■受賞者名 内外薬品株式会社、志水木材産業株式会社、長野県

【作品の概要】

ケロリン桶を木製化することで、木が使われなくなってきた事を人々が認識し、温もりを感じるとともに、木材使用の回帰を促す。

【審査委員会コメント】

身近で見慣れた製品の素材を木に転換することで、木の良さを再認識させるユニークな発想。分野を超えたものづくりやモティーフの転用は、今後の木材利用の大きな切り札となり得る。

【審査委員長當(奨励當)】 ライフスタイルデザイン部門

■作品名 めぐる

■受賞者名 株式会社明天、ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン、石原木工所、丸祐製作所、吉田漆工房、塗師一富

【作品の概要】

視覚障がい者と職人のコラボレーションによって、森林資源の良さを伝えつつ、肌触りや口当たり、優しいかたちを追求した作品。

【審査委員会コメント】

視覚障がい者の研ぎ澄まされた感覚で肌触りや持ちやすさを試してもらい、商品化した開発プロセスが秀逸である。使い勝手の良さ、という食器本来のあるべき価値を独創的な手法で向上させているストーリー性ある製品。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ライフスタイルデザイン部門

■作品名 間伐材もく糸クロス■受賞者名 株式会社和紙の布

【作品の概要】

国産間伐材を使用した100%の和紙で木糸の開発に成功、素材感、高級感を備え、破れにくい。人にも環境にも優しい壁装クロス。

【審査委員会コメント】

製品としての質感のクオリティが非常に高い。建材としての可能性が広がり、多用途に向けたデザインや製品化が期待できる。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ライフスタイルデザイン部門

■作品名 敷くだけフローリング■受賞者名 SMALL WOOD TOKYO

【作品の概要】

床に敷くだけで無垢の木空間リフォームできる製品。賃貸の原状復帰も簡単。東京の森と林業に対するアクションを提供する事業。

【審査委員会コメント】

東京産のスギ・ヒノキを製材・加工した東京産の製品。敷くだけ、という簡易さ、賃貸住宅でも可能な利便性、自分でデザインする楽しみなど木のある暮らしを身近にしている。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ライフスタイルデザイン部門

■作品名 WooD INFILL

■受賞者名 株式会社内田洋行、鹿沼WOOD INFILL 有限責任事業組合、パワープレイス株式会社、日本全国スギダラケ倶楽部、 テラダデザインー級建築士事務所

【作品の概要】

木のフレームを屋内に設置し、空間木質化、設備やインテリアの取り入れを実現。柱の本数や長さで様々な空間に柔軟に対応する。

【審査委員会コメント】

屋内に手軽に木質空間を作り出すことができる汎用性の高いユニットである。構造はシンプルで、ユーザーの装飾や工夫次第でオリジナルな木質空間の提案が可能である。幅広い活用が見込まれる点を評価。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ライフスタイルデザイン部門

■作品名 POLUS-ポラス-学生・建築デザインコンペティション

■受賞者名 ポラス株式会社

【作品の概要】

「木の家」によるアイデア募集、商品化を通じ、学生の自由な発想を表現する機会を設け、木造建築や住宅に対する理解を深める。

【審査委員会コメント】

アイデアレベルに留まらず、商品化までを視野に入れた本物感が良い。これからの担い手である学生の参画によって、これからの木のある暮らしの有り様を先取りする取組である。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ライフスタイルデザイン部門

■作品名 全国一斉100のありがとう風呂

■受賞者名 株式会社熊野古道おわせ

【作品の概要】

感謝の言葉を書いたメッセージウッドを温浴施設の浴槽に浮かべるイベント。敬老の日では50~100店舗で1~2万人が参加する。

【審査委員会コメント】

浮かぶ、香りがする等の木の特性を生かし、木の板にメッセージを書き、大衆浴場でそのメッセージを読みながらひとときを過ごせる。 わかりやすさ、誰もが参加できる仕組み、世代間交流の促進などコミュニケーションツールとしての木の機能性に着目した点を評価。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ライフスタイルデザイン部門

■作品名 木の内装と間接照明を組み合わせた寝室環境による睡眠の質改善効果と疲労軽減効果

■受賞者名 住友林業株式会社

【作品の概要】

木の光学的特長を活かし、間接照明との組み合わせで、睡眠の質を改善し疲労を軽減させる機能性を有することが示唆された。

【審査委員会コメント】

現代は睡眠障害の時代とも言われる。健康や生活の質の低下をもたらす、この現象を木の内装と間接照明を組み合わせた寝室環境から解決しようという意欲的な試みである。睡眠や疲労軽減と木の関連性の医学的なエビデンスは木の利用範囲を広めることにつながる。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ハートフルデザイン部門

■作品名 阿蘇くまもと空港 国内線ターミナル

■受賞者名 株式会社日建設計、熊本空港ビルディング株式会社、大成建設株式会社、一般社団法人熊本県木材協会連合会、

株式会社ウッディーファーム

【作品の概要】

熊本県産材を内装に使い、木の暖かみに触れ香りを感じ、五感に働きかける。地方性豊かで旅客の記憶に残る空港旅客ターミナル。

【審査委員会コメント】

地域材を内装に使い、木の暖かみに触れ、香りを感じることで五感に働きかける「おもてなし」空間をデザインしている。木の質感を活かした空間は意匠性に富み、来訪客の記憶に残るものとなるだろう。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ハートフルデザイン部門

■作品名 ヘンロ小屋

■受賞者名
歌一洋、「四国八十八ヶ所へンロ小屋プロジェクト」を支援する会

【作品の概要】

四国八十八か所の遍路文化の再認識を目的に、横架材による空間構成、構法でつくられた簡易休憩所群。景観づくりにも寄与する。

【審査委員会コメント】

独特の意匠を持つ木小屋を通じて、お遍路さんとのふれあい、遍路文化の向上につなげるという、地域文化を象徴する木づかいの好例。専門的な技術を要しない構法は、建築、家具など多様な展開の可能性を持ち、参画者が今後も積極的に木を使う契機にもなる。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ハートフルデザイン部門

■作品名 樹の壁紙 恋樹百景■受賞者名 株式会社ビッグウィル

【作品の概要】

折り曲げもできる、つき板を使用した壁紙。間伐材や産地指定材での製造も可能で、凹凸面・入隅・出隅へも施工できる機能性。

【審査委員会コメント】

木材の使用量としては多くはないが、木の質感や表情を表しで使える点がユニークで楽しい。クロスとしての使い方以外への展開の可能性も高く、クリエイターの心理をくすぐるアイテムである。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ハートフルデザイン部門

■作品名 Pendant Lamp BL-P425

■受賞者名 ブナコ株式会社

【作品の概要】

巻きの技術によって、スタイリッシュなデザインとブナの木肌が持つ柔らかな風合い、手触りが調和した、眺めて愉しめるランプ。

【審査委員会コメント】

美しい曲線は独特の巻き加工によるものであり、木を介した柔らかな灯りは見ている者の心を和ませる。加工の難しいブナ材を技術とアイデアで高い品質へと導いた。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ハートフルデザイン部門

■作品名 KURIKOMA

■受賞者名 株式会社ワイス・ワイス

【作品の概要】

被災地域の人々自身による持続可能な復興のための家具作りプロジェクト。杉の特徴を活かした軽量の椅子ができあがった。

【審査委員会コメント】

被災地域に暮らす人々が機能性の高い家具を製作し、持続的な復興に取り組むプロジェクトである。軽量化にこだわった国産家具を製作するために、CLT工法を採用するなどアプローチも多面的で、物語性がある。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ハートフルデザイン部門

■作品名 100 年杉の sim chair

■受賞者名 株式会社コマ

【作品の概要】

快適性、耐久性、軽量化など求められる機能を最大限に引き出すため、最小限の木材と肉厚で構成された究極のダイニングチェア。

【審査委員会コメント】

シンプルさを追求したダイニングチェアで、杉の主伐材を採用し柔らかさ、温かさ、香りを演出するとともに、造形性に非常に優れている。徹底した軽量化のために導き出された機能美がユーザーの心に伝わってくる。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ハートフルデザイン部門

■作品名 誕生木 (たんじょうもく)12 の樹の物語

■受賞者名 株式会社Labo

【作品の概要】

国産の 12 種目を謂れや特徴、季節感に応じて、月毎に誕生木として設定、木の持つ優しさや温もり、木の文化が、心に残るように提案した。

【審査委員会コメント】

誕生木というストーリー性が良く、プロダクトのクオリティも高い。暮らしとの接点を探りつつ、人々の心に残るコミュニケーションデザインが良くできている。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ハートフルデザイン部門

■作品名 ホレール (君のミニ列車を幻の五新鉄道で走らせよう)

■受賞者名 NPO 法人五新線再生推進会議

【作品の概要】

木質材料に親しみ、有用性を理解してもらうため、木のレールを延べ 2Km 旧鉄道跡に敷設し、手持ちのミニ列車を走らせる取組。

【審査委員会コメント】

木づかいの可能性を広く認知させるという点において、ニュース性がある取組。廃線になった場所を使うことで地域の歴史を振り返ることにもつながる。 子どもから大人まで参加でき、見た目もわかりやすい活動である。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ハートフルデザイン部門

■作品名

人間の快適性に及ぼす木材の触覚、視覚及び嗅覚刺激の効果の解明

■受賞者名 国立研究開発法人森林総合研究所、京都大学生物材料設計分野

【作品の概要】

木材による視覚、嗅覚、触覚刺激が人間に与える影響の評価指標を確立し、「木材の良さ」につながるデータの蓄積を進める研究。

【審査委員会コメント】

「木の良さ」を最新技術によって研究、科学的な裏付けを実施している意義ある取組。木材の特性ではなく、それを受け取る「人間」に着目した点に唯一無二の価値がある。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ハートフルデザイン部門

■作品名 国産木材エレキギターの木質形成と音響特性の分析研究

■受賞者名 一般社団法人創造再生研究所、株式会社MATSUIギター工房、天竜 T.S. ドライシステム共同組合、京都大学農学部森林科学学科

【作品の概要】

「人々の心に資する木材利用」として制作と研究・分析を行う。木質形成並びに音響特性分析で新しい音色づくりに成功。

【審査委員会コメント】

ギターというプロダクトに着目した点もユニークであるが、木質特性や音響特性を大学と連携して検証していることで、国産材活用の可能性を広げることにつながっている。文化や芸術と木の接点を掘り起こす意欲的試みである。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ソーシャルデザイン部門

■作品名 Zero Energy Timber House(ZETH)

■受賞者名 金子建築工業株式会社、協同組合 東濃地域木材流通センター(通称 木 Keypoint(キーポイント))

【作品の概要】

土塗り壁高断熱住宅の躯体をベースに太陽光発電等を搭載したプラス・エネルギー木造住宅。真壁仕上げでヒノキの需要拡大に貢献。

【審査委員会コメント】

土塗り壁高断熱の躯体に蓄熱効果をもたらす真壁仕上げ、太陽光発電や太陽熱給湯を合わせ、省エネルギー・創エネルギーの木造住宅のモデルを提案している。高齢者の温熱環境による事故解決のためのひとつの試みとして社会性がある。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ソーシャルデザイン部門

■作品名 日本圧着端子製造株式会社

■受賞者名 Atelier KISHISHITA+Man*go design、日本圧着端子製造株式会社、鹿島建設株式会社 関西支店、

越井木材工業株式会社

【作品の概要】

国産材による快適な執務空間を形成しつつ、素材感や色調の変化を通じて「動的な建築」を表現した都市部オフィスのプロジェクト。

【審査委員会コメント】

意欲的な内外装の木質化を試みた、意匠性に優れた建築物である。保護塗装を施さずに経年変化も読み込んだ設計は、木の魅力を伝えるに十分な存在感を持つ。外装の木質化によって、林業関係者や設計者の意欲向上にもつながる。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ソーシャルデザイン部門

■作品名 竹中大工道具館新館

■受賞者名 株式会社竹中工務店、株式会社乃村工藝社、公益財団法人竹中大工道具館

【作品の概要】

大工道具の展示や木の文化、ものづくりを伝える。鉄と木のハイブリッド多目的ホール等、随所に伝統的・現代的技術の粋を集めた。

【審査委員会コメント】

日本で唯一の大工道具の博物館として、職人技術や先進技術を空間に使い、木の魅力を伝える意匠性が高いミュージアムとなっている。 技術展示とともに、木の素晴らしさや木と触れ合う楽しさを体験するワークショップなどを実施しており、日本の木づかいの伝統から技の 習得まで次世代へ伝えるべきコンテンツがあることを評価した。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ソーシャルデザイン部門

■作品名 カーボンオフセットサイディング

■受賞者名 ニチハ株式会社

【作品の概要】

国産材チップを原料にした窯業系サイディング。チップの固定 CO2と森林側での CO2 吸収分をクレジットとして製品に付加した。

【審査委員会コメント】

国産材の端材等を利用した木材チップを原料にした窯業系外壁材である。購入者には「カーボン・オフセット証明書」を発行し、CO2 削減量を見える化しており、製品購入を通じて環境貢献が実感できる仕組みになっている。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ソーシャルデザイン部門

■作品名 「京銀ふれあいの森」等の地域産材を使用した、銀行店舗内装木質化工事

■受賞者名 株式会社京都銀行

【作品の概要】

森林保全活動を実施する森で、行員が伐採~搬出を行ったヒノキ間伐材を銀行各店舗の内装材と使用する、「地産地消」の取組。

【審査委員会コメント】

入口と出口をつなぐ、社会提案性の高いプロジェクトである。行員自らが森林整備へ赴き実践している点、内装木質化の取組の継続性、 店舗数の規模を見ても同様の事例では群を抜いている感がある。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ソーシャルデザイン部門

■作品名 旭川トドマツ屋台プロジェクト

■受賞者名 株式会社北海道ポットラック、株式会社パワープレイス、北海道上川総合振興局、旭川市、旭川信用金庫 CONITURE プロジェクトメンバー

【作品の概要】

未利用だったトドマツを使った、地域イベント等で展開する屋台プロジェクト。組み立て式 4WAY、美しいデザインが特徴。

【審査委員会コメント】

屋台という身近なアイテムを通じて、川上・川中・川下の意識醸成を促し、トドマツの活用を促進するプロジェクト。屋台のデザインクオリティも高く、問題意識と伝え方に一貫性がある。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ソーシャルデザイン部門

■作品名 やまなし水源地ブランド推進協議会

■受賞者名
やまなし水源地ブランド推進協議会、早川町、丹波山村、道志村、公益財団法人オイスカ、

特定非営利活動法人木 net やまなし、特定非営利活動法人道志・森づくりネットワーク、

山梨県工業技術センター、株式会社イトーキ、シナプテック株式会社

【作品の概要】

水源地である山間地と都市部の産官民が集い、川上から川下まで一貫した協働体制を構築し、都市のニーズに沿う木材製品を開発。

【審査委員会コメント】

水源地という共通の要素を持った地域が結集し、多様なステークホルダーを巻き込んだ取組につながっている。都市の中の木づかいというニーズに沿った製品開発は個々を見てもクオリティが高く、提案性のあるものになっており、構想とアウトプットがマッチしていると感じる。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ソーシャルデザイン部門

■作品名 大工の手

■受賞者名 一般社団法人わざわ座

【作品の概要】

家づくりの端材や素材を活用し、大工の手で家具をつくる。デザイナーとの協働で生活と環境を考えた持続可能な家具作りを目指す。

【審査委員会コメント】

大工が家を作り、その延長線上で家具も作ることで、家具と家をつなげていくユニークな取組。大工とデザイナーのコラボレーションによって質の高い家具開発が実現しており、住まいと家具双方に木づかいの愛着を促している。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ソーシャルデザイン部門

■作品名 「セブンの森」プロジェクト

■受賞者名 一般財団法人セブン-イレブン記念財団、株式会社セブン&アイ ホールディングス

【作品の概要】

全国での森づくり活動、自社開発の環境配慮型商品など、「入口から出口まで」を考え、森の成長と木材の循環を推進する社会活動。

【審査委員会コメント】

可視化された企業の CSV、CSR プログラムとして規模、質とも完成度が高い。小売・流通事業者として、包装容器を通じて最も接点のある一般生活者に木づかいの重要性を伝える取り組みも評価できる。

【審査委員長賞(奨励賞)】 ソーシャルデザイン部門

■作品名 丸太打設液状化対策&カーボンストック(LP-LiC)工法

■受賞者名 飛島建設株式会社、兼松日産農林株式会社、昭和マテリアル株式会社

【作品の概要】

地中に森をつくり炭素貯蔵する、丸太による液状化対策と地球温暖化緩和策、地域材使用による地域活性化を満たす世界初の工法。

【審査委員会コメント】

昔から木杭はあったが、それを科学的に証明し現代構法に活かせるようにした点は、防災意識が高まる現在において改めて社会的インパクトが大きい。木材学会、土木学会、森林学会が協力した点も評価に値する。

〔ウッドデザイン賞について〕

1. 主催等

(1)主催: ウッドデザイン賞運営事務局

((特)活木活木森ネットワーク、(公社)国土緑化推進機構、(株)ユニバーサルデザイン総合研究所)

(2)後援: 林野庁

2. 募集期間

2015年9月1日(火)~10月7日(水) 審査料:無料

3. 表彰部門

(1)ライフスタイルデザイン部門 〜木を使って暮らしの質を高めているもの	木を使うことで機能性や利便性を高めている、新しい領域で木の活用が提案されている、消費者に木のある豊かな暮らしを提案している、建築・空間、木製品、コミュニケーション、技術・研究など。
(2)ハートフルデザイン部門 〜木を使って人の心と身体を健やかにしている もの	木を使うことで快適性を高めている、五感や感性に働きかける、リラックス効果 や健康維持・増進効果がある、建築・空間、木製品、コミュニケーション、技術・ 研究など。
(3)ソーシャルデザイン部門 〜木を使って地域や社会を活性化しているもの	木を使うことで森林や地域の活性化に貢献している、人材を発掘・育成している、 普及啓発効果が高い、作り手や担い手のストーリー性を伝えている建築・空間、木製品、コミュニケーション、技術・研究など。

4. 賞の構成

最優秀賞(農林水産大臣賞)	1点	
優秀賞(林野庁長官賞)	3点×3部門	本日発表分
奨励賞 (審査委員長賞)	10点×3部門	
ウッドデザイン賞 (入賞)	397点	11 月 19 日発表しました

5. 応募分野

① 建築・空間・建材・部材分野	店舗、施設、住宅、建材、部材等	
② 木製品分野	家具、インテリア、日用品、楽器、遊具等	
③ コミュニケーション分野	ワークショップ、プロモーション、人材育成、ビジネスモデル等	
④ 技術·研究分野	技術、研究、調査、実験住宅、試作品等	

6. 応募資格

森林・林業・木材産業関係者、建築・住宅・家具・インテリア産業関係者、設計士・デザイナー・クリエイター、施設・店舗のオーナー、小売・流通事業者、メディアなど、木づかいを推進するすべての方が対象。企業、個人、団体、自治体、学校、研究機関を問いません。

7. 応募~発表・PR までの主な流れ



8. 選考

応募総数 822 点から書類による「第一次審査」、審査委員会(委員長:赤池 学)による「第二次審査」を通過した 397 点の「ウッドデザイン賞」受賞作品の中から、「最終審査」で選ばれた「農林水産大臣賞(最優秀賞)を 1 点、「林野庁長官賞(優秀賞)」を 9 点(3 部門 $\times 3$ 点)、「審査委員長賞(奨励賞)」を 3 点(3 部門 $\times 10$ 点)選考しました。

9. 審査委員会

(★:審査委員長、☆分野長 敬称略)

	★赤池 学(プロジ	ェクトデザイナー、科学技術ジャーナリスト)
〔建築·空間·建材·部材分野〕	隈 研吾 腰原 幹雄 鈴木 恵千代 手塚 由比	(建築家、東京大学教授) ☆ (東京大学 生産技術研究所 教授) (空間デザイナー) (建築家)
〔木製品分野〕	益田 文和 高橋 正実 三谷 龍二 山田 遊	(プロダクトデザイナー) ☆ (デザイナー、コンセプター) (木工デザイナー) (バイヤー)
〔コミュニケーション分野〕	日比野 克彦 戸村 亜紀 古田 秘馬 山崎 克	(アーティスト、東京芸術大学 教授)☆ (クリエイティブディレクター) (プロジェクトデザイナー) (コミュニティデザイナー、東北芸術工科大学 教授)
〔技術・研究分野〕	伊香賀 俊治 相茶 正彦 青木 謙治 恒次 祐子	(慶應義塾大学大学院 教授) ☆ (木材・バイオマス利用コンサルタント) (東京大学大学院 講師) (森林総合研究所 主任研究員)